

かわらばん

まちえんながの

第 22 号

10 月 24 日
発行
まちの縁側育み
プロジェクトながの

長野市ボランティア
センター内
TEL 227-3707
FAX 224-1513



縁側大楽

「縁側のこれからを語る」 生命福祉コミュニティづくり



まちの縁側育みプロジェクトながのでは、まちの縁側5、000カ所を目指し活動を続けてきました。10年の年月を経て、未来に向けて進むべき道を延藤先生を交えて話し合いました。

延藤先生より「生命福祉コミュニティづくり」についてお話しを伺いヒントを得ました。

最初に、吉野弘の詩『生命はその中に欠如を抱き』を紹介され、「人は、どんなに頑張っても一人では生きていられない、命の欠如をまちの縁側は補っている。」と生命福祉とまちの縁側の関わりをお話しされました。

— 吉野弘の詩 —

生命は

それ自身だけでは完結できないようにつくられておしべが揃っている花もめしべとおしべが揃っている

だけでは不十分

虫や風が訪れてめしべとおしべを仲立ちする

生命はその中に欠如をいただき

それを他社から満たしてもらおうのだ

命の育みに対する感受性を高める事：「生活福祉」ではない「生命福祉」：命を育む福祉。

① まちの縁側は3つの命を育む

① 生の息吹

生きとして生けるものすべてつながりあう：人間だけでなく、縁側は生の息吹を実感できる現場。それは、他者の命に対する思いやりとともに自らやろうという内なる力、内なる感情。それがひとを生かし他者を生かしていく。生なる息吹は内から始まる。私から始まる。

② 生の楽しさ

内なる気持ちを喚起するのは楽しさである。生の楽しさは縁側の極意である。看板作りや縁側笑楽校のように、楽しさをキーワードにした取り組みがいくつも繋がってきた。

③ 生の慈しみ

他者への優しさの感情が私を育みまわりを変えていく。信里新聞は、地域（中山間地）でおきた孤独死から信頼し合って地域

今後の取り組みについてのキーワード

ま まち育て型に踏み込む まちづくり交流拠点
ち コミュニティカフェ
縁 超かっこいい理念の実践を 苦しみながら楽しもう
縁側マインドの言葉と振る舞いに鋭敏になる
「まち縁ながの」で
いけるやんか！

で生き続けられる状況を生み出すと新聞づくりを始めた。それは、手法としての新聞づくりではなく危機を突破し夢をわかちあう活動。

まとめ

生の息吹、楽しさ、慈しみ、みな繋がっていて切り離せないもの。命の欠如を埋めて行く縁側の役割はその辺りにある。それができると安らぎの場として縁側になる。言い換えると、生の充実を生み出していくまちの縁側は、生命福祉コミュニティではないか。

まちの縁側紹介！

自宅ガレージが縁側に！

郊外の住宅街…丸山政義さんのお宅の玄関先には、可愛い木工作品がずらりと並びます。思わず、「なんだろう」と足がとまります。すると、ガレージの奥から「よってけや」と、声がかかるのです。奥には、机と椅子があって、お茶のみができるようになっています。



玄関に飾られている木工作品につられて散歩中の親子が立ち寄ります。

移動販売車が来るまで、皆でお茶をして待つ。この時間もいいね。



区で開催するお茶のみサロンのほかに回数を補うように丸山さんが始めたサロンもあります。地区公民館を開放していつ来てもいい日を作っています。そうした人の集まりの中から『買い物に行けなくて困っている』悩み事が出されました。「買ってきてもらうのではなく自分で買い物がしたい」だれもが思う事です。



そこで、サロンの日に合わせて移動販売車に来てもらう事を思いつき始めてみると、これが大好評！毎週木曜日の夕方、移動販売車が来ることになりました。困った人を見るとほっとけない丸山さん、今度はどんなアイデアを考えているのでしょうか。



丸山さんの縁側は、まさに『**生命福祉コミュニティとしてのまちの縁側**』です。ガレージを開放してご近所さんが立ち寄れる場を開いた「生の息吹」。趣味の木工や手打ちうどんの技を生かしている「生の楽しさ」。困っている人をほっとけない「生の慈しみ」を随所に感じます。

つばやき 今年もあちこちから視察を受け、縁側の皆さまにはお世話になりました。驚くべきは、縁側人のみなさんの意識の高さ！行くたびにたくさん学んでいます。縁側は、やはり現場に行つて話を聞くのが一番だと思つた。みなさま、よろしくです



連絡先
電話
3 2 0
7 2 2
0 7 6
7

vc106@vnetnagano.or.jp

*まちの縁側育みプロジェクトながのでは、まちの縁側を伝え広める活動をしています。地域に Outreach 縁側の紹介や研修を行つていきます。縁側に関心のある方はご一報ください！